真田宝物館だより

第35号

六連銭

真田郎襖の下張文書を整理する

整理作業をするボランティア会員

平成26年12月発行

松代文化財ボランティアの会の取り組み

松代文化財ボランティアの会は、松代を中心とした地域の文化財を調査し、広く紹介する活動をおこなっています。その中で、主に文化財の調査・研究をしている会員を中心に、平成二十四年（二〇一二）に保存改修工事が終了した真田邸（新御殿）の襖から出てきた下張文書の整理作業を進めています。作業は、主屋の工事が終了した平成二十二年（二〇一〇）の翌年十二月から開始し、現在は四十面近くの襖の整理が終了しました。当初は慣れないなかで戸惑ったことも多くありましたが、真田宝物館と松代文化財ボランティアの会会員で協力しながら、日々、新しい発見に喜びを感じています。今回は、三年間の調査の結果・概要をご紹介します。

下張文書とは

古くから日本家屋に欠かせないもののひとつに「襖」があります。

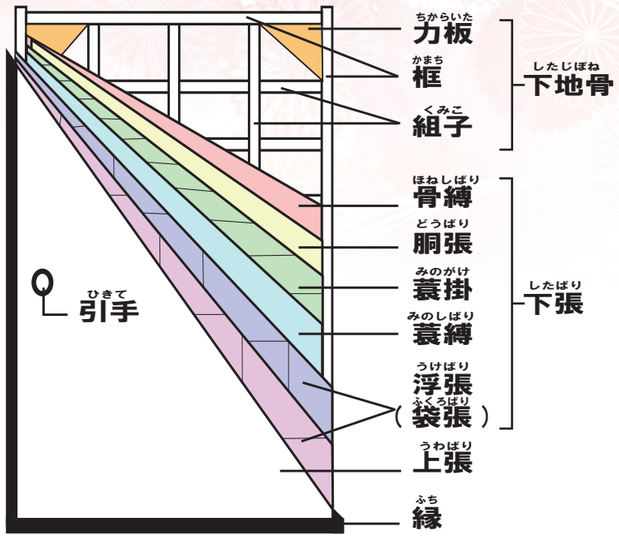
襖とは、木製の骨組みの両面に紙や布を張ったもので、室内空間を仕切ったり装飾したりする建具です。日本特有の高温多湿な気候を調整する機能をそなえた、大変優秀なものです。近年の襖は、板などを中心にして両側に紙を張るものが主流になっていますが、古くからある「襖」はとても弾力があり厚みのあるしっかりした造りになっています。その中はどうなっているのでしょうか。

襖の上張をはがしてみると、その下は何層にも重なり大量の紙が張られています。これは「反古紙」と呼ばれ、役目を終えて不要になった古い紙です。現在と比べて紙が貴重なものだった時代、不要になった紙を再利用するだけでなく、紙を回収し販売する業者もおり、反古紙を漉き返した紙も出回っていました。反古紙は、襖や屏風だけでなく身に着けるものや入れ物などにも使われていました。

こうした反古紙の中には文字が書かれた古文書があります。これを「下張文書」といいます。下張文書は、張り重ねることで襖や屏風に弾力性や強さを与え、温度や湿度などを保ちます。

近年、下張文書は構造的なものだけでなく歴史史料としても注目されています。本来なら廃棄されてしまう文書が襖の形で大量に残され、それらをひも解くことにより、埋もれていた歴史の一端を知ることができるからです。

一般的な襖の構造



一般的な襖のつくり

	層の特徴	糊付け方法
下地骨	木製の格子状の芯	
骨縛	下地骨の上に糊付けして張られた層 糊の跡が格子状に残る	骨部分のみ糊付け
胴張	骨縛を押さえるために張られた層	全面糊付け
簑掛	何層にもなるようにずらし重ねて張られた層	一辺糊付け
簑縛	簑掛を押さえるために張られた層	全面糊付け
浮張	簑縛の上に張られた層	四辺に細く糊付け
上張	襖紙・絵画・書など	全面糊付け

真田邸の襖

真田邸改修前に外された襖は、骨組みからはがした状態で二〇〇面（襖の形で一〇〇枚）を超え、膨大な量があります。襖は上張を含め四層で構成されており、そのうちの二層からは下張文書が発見されました。

（1層目）
上張の層。表面は胡粉や雲母などを使用して木版刷りされている。

（2層目）
浮張の層。下張文書が張られている。

（3層目）
簑縛の層。2層目と同じく下張文書が張られている。

（4層目）
簑掛の層。筋入（原料である楮の繊維が混じったもの）の紙が、二分の一ずつ張り重ねられている。

下張文書を整理する

作業に入る前に

改修工事にあたり、古い襖は骨組みからはがし、木箱に収納していました。襖の上張が大変もろく、作業が進められないことから、まずは襖の状態を把握し、スムーズに作業が始められるよう仮整理などをおこないました。

作業開始

真田邸の襖の整理作業は、作業に向けての勉強会や、別の襖や屏風の整理作業を経て始めました。「現状に戻すことができるような正確な記録と丁寧な作業をする」ことを目標に進めていますが、作業はすべてが手探りの状態で、整理方法について何度も検討を重ねて、現在も試行錯誤しながら続けています。

1 襖の確認・仮番号整理

襖がどのような状態か確認し、1面ずつ仮番号を付けて写真撮影をする。

2 上張の剥落止め

■ にかわ塗り

上張の胡粉がもろく動かすのが困難なことから、にかわを溶かした液を塗り表面を固定する。
にかわ溶液が染み込まない場合にはふのり溶液を塗る糊引という作業をする。

3 分　割

襖の4層のうち、2層目と3層目の間をへらではがし2つに分ける。

1 台帳作成

張られている文書の状態や内容などを観察し、上から順番に番号を付ける。層ごと・文書ごとに写真撮影をし、細かな現状をそれぞれの台帳に記録する。

■ 写真撮影

■ 台帳に記録する

層ごとや文書ごとにスケッチ・計測した寸法を台帳に記入する。

2 3層目文書の剥離

■ はがし作業

文書をはがしやすくするためにあらかじめ噴霧器で水をかけてぬらしておく。糊が浮いたら、文書を傷つけないように、不織布に貼り付けながらはがす。

3 文書の裏打

裏打とは、虫食いや破損で傷んだ文書の裏に和紙を張って補強すること。真田邸の襖の下張文書は、1点1点が比較的傷みが少なく裏打の作業はわずかである。

①**準備**　裏打する文書の大きさより少し大きめに和紙を切る。

②**不織布を固定**　水を付けた刷毛で不織布2枚を台に固定する。

③**文書を固定**
不織布の上に文書を裏返しにのせ、水を付けた刷毛でおさえる。この時、破損箇所を整えておく。

④**和紙を固定**　もう一枚の不織布の上に、和紙の表を上にしてのせ刷毛で糊をぬる。

⑤**はり合わせ**　不織布に固定した文書と和紙を中合わせにし、刷毛で撫でて固定して片方の不織布をはがす。

⑥**板に張る**
裏打ちされた文書を板に張り、不織布をはがす。文書が完全に乾いたら板からはがす。

4 解　読

はがされた文書や台帳を見ながら解読する。

5 保存・データ整理

すべての作業が終了したら、資料にラベルを付けて収納・保存する。撮影した画像や台帳に記入した記録は、パソコンに入力して整理する。

真田邸の襖絵

真田邸の唐紙は、御殿建築の特徴ともいえる「表」（公的な部屋）と「奥」（私的な部屋）と、さらに部屋の内側・外側でも別の文様が使われていました。また、真田邸は通常の御殿とは異なり、奥向きの部屋にも趣向を凝らす傾向があり、絵師の酒井雪谷によって描かれた襖絵のほとんどが奥向きの部屋に飾られていました。

御居間にある床の間の地袋の襖絵。天袋の襖絵には「甲子初冬　雪谷」と落款があり、元治元年（1864）の酒井雪谷筆とわかる。

真田邸（新御殿）

真田邸は、元治元年（1864）に完成した松代城の城外御殿です。当時は「新御殿」と呼ばれていました。９代藩主・真田幸教の義母の住まいとして建てられ、明治以後は真田家の私邸となりました。昭和41年（1966）に松代町（現在の長野市松代町）に譲渡され、昭和56年（1981）４月に松代城の「附」として国の史跡に指定されています。江戸末期に建てられた御殿建築で、遺構全体が現存しているものは非常に少なく、全国的にも貴重な建物です。

真田邸の襖から出てきた古文書

真田邸の襖の整理作業では、その下張からさまざまな文書が出てきました。多くは、金銭などの受払いの際に記録された帳簿をほどいたものでした。残念ながら年代や場所が書かれていないものが多く、帳簿がどこでどのように使われたのかは特定できていません。しかし、なかには松代藩が治めていた村の名前などがみられることから、これらは領内から用立てられたものと考えられます。他には、村から藩に宛てた願書や参勤交代の各宿場からの受領書などもみられました。

整理作業はまだ全体の五分の一が終わったところです。これからの作業でどんなことがわかるか楽しみです。

天明四年の参勤交代

この文書は、天明四年（一七八四）に甲州街道・石和宿の問屋から松代藩士久保団蔵が受け取った受領書です。参勤交代制度は大名が領地と江戸を行き来し、一定期間双方に居住した制度です。松代藩は主に中山道～北国街道のルートを旅していました。

これまでの研究では、天明四年（一七八四）のみ甲州街道～佐久甲州街道～北国街道を通ったと想定されていましたが、その詳細が真田邸の襖の下張文書から見つかりました。日本橋から中山道・長窪宿までの三十七の宿場からの受領書で、江戸を出立した日や通ったルートが新たにわかりました。

この年、六代藩主の真田幸弘は、持病のため険しい碓氷峠（中山道）を避け、甲州街道を使用したいと幕府へ願い出ています。前年の天明三年（一七八三）の浅間山の大噴火も影響したのかもしれませんが、この年の参勤交代は、甲州街道～中山道～北国街道を通ったことがわかりました。

真田邸以外の襖から出てきた下張文書

相撲番付表

真田邸襖の整理作業に入る前に別の襖を整理した際、そこから江戸時代末期の大相撲番付表が出てきました。

この番付表の東前頭筆頭には、君ケ嶽助三郎という名前がみえます。東寺尾村（現在の松代町東寺尾）出身の松代藩お抱え力士です。これは嘉永六年（一八五三）のもので、君ケ嶽が最高位に上がった時にあたります。この翌年、君ケ嶽は四〇歳で亡くなりました。

この襖には、手習いや途中で切れた書簡が大量に張られていました。張られた文書の枚数も多く、一枚の襖で二〇〇点を超える文書が張られていました。

（文責　小山万里・松代文化財ボランティアの会 襖整理作業 参加者一同）

〒381-1231 長野市松代町松代4-1
TEL 026-278-2801　FAX 026-278-2847
HP http://sanadahoumotsukan.com
長野市教育委員会　松代文化施設等管理事務所（真田宝物館・真田邸・文武学校・旧横田家住宅・象山記念館・旧白井家表門・松代城跡・山寺常山邸・旧樋口家住宅・旧前島家住宅）